

令和3年度 第2回 楽寿園運営委員会 議事要旨

1 日 時 令和3年11月12日（金）午後1時30分～3時00分

2 場 所 郷土資料館 1階 多目的室

3 出席者 出席：委員 15名 アドバイザー2名 欠席：2名

4 議事

(1) 開会 事務局からの報告

① 委員1名交代

② 先日(11/3)開催された市制80周年記念式典で楽寿園に縁のある2人(団体)に、三島市から感謝状が贈呈された。

(2) あいさつ

(3) 議事

① 令和3年度事業報告

○ハード事業

・キュービクル(変電設備)の修繕の進捗状況について

昨年度実施したメリーゴーランド横キュービクルに引き続き、郷土資料館北側(ステージ裏側)の修繕の業者が決定したので、12月から1月にかけて実施する予定。

・アスレチック遊具の取り付けについて

前回の委員会でお話ししたものでネット登りを増設するもの。業者が決定したので、1月になったら現在のアスレチックの隣に設置を始める予定。設置後は匿名による寄附として取り扱う。

○ソフト事業

・入園状況について

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により4/19～5/18の臨時休園もあり、今年度の始めは昨年の同時期に比べれば増えてきたものの、8月からはイベント中止をし、8/20～9/30は緊急事態宣言の下で臨時休園し、9月の入園者は0だった。

10月からは持ち直してきたものの、昨年度より下回っている。

新型コロナウイルスの影響を受けている。

・各種イベントについて

4月から8月初めまでのイベントでは、そこそこの入園者があったが、以降イベントの中止や臨時休園の影響で実施できないことが多い。

10/3にSL機関車が来園50周年を迎え、応援隊でSLの定期清掃をしてくださるボランティアによる講話を実施した。

タイトル「機関車の楽しく、おもしろい話を聞いてみよう」

・第69回楽寿園菊まつりについて

10/30～11/30の間開催。今年は新型コロナウイルスの終息を願い、東大寺の大仏殿と南大門を作製した。その中で、11/7に東大寺長老の北河原公敬氏をお招きし、講話をいただいた。参加者 74名

タイトル「大仏さまにこめられた思い 一枝の草・一握りの土」

・小浜池の水位について

今年、7/7に満水の基準水位150cmを超え、10/29まで満水を記録した。
最高水位210cmなり、2年連続満水となったのは、17年ぶりとなった。

<委員からの意見>

○来園者数の増減については、どこを基準に考えたらいいかかわからないが、他の近隣周辺施設からみてみると、このような状況の中、小浜池の満水等の影響か、近くの方々なのか多くの方々に来ていただいていると思われるので、存在価値・意味はあると考える。

② 令和4年度事業予定【予算要求段階のため、予定内容は確定していない。あくまでも楽寿園としての財政サイドへの要求するもの】

○ハード事業

●園北側の外周境界柵の撤去・改修

展示場北側の、民地との境界に存在する既存の簡易的な柵を撤去し、防犯対策とプライバシーの配慮に資する塀に改修したい。地図参照

●キュービクル（変電設備）の修繕

令和2年度1基、令和3年度にもう1基の修繕を行うが、それに伴い別工事（抵抗地）が必要となってきたため、まず令和2年度に実施した設備側に対し実施したい。

●楽寿館・梅御殿の耐震化

築130年を超える楽寿館・梅御殿の保存と入館者の安全対策として、耐震診断及び設計を行ないたい。3か年計画とし、令和4年度に耐震診断、5年度に設計、そして6年度に工事としたい。

●展示動物の導入

展示動物の魅力を増やしていきたい。小型で触れ合える動物を増やしていきたいと考えている。リス、サル、フクロウなど。

●楽寿の森管理計画に基づく整備

・樹木管理

いこいの松の保全管理を行うとともに、育成のための剪定を行う。

・枯損木調査点検・伐採

事故が無いように調査をし、該当樹木を伐採する。

・ナラ枯れ対策

ナラ枯れによる被害が全国的に出ており、調査及び対策を実施。

現在該当木12本確認済。

<委員>

小浜の森がナラ枯れの被害が大きいが、実生の木について、半分くらい残してほしい。

○ソフト事業

・開園70周年対応について

詳細はこれから考えていくこととなるが、基本的には7月15日の開園記念日に近い日曜日7月10日に開催するものと、菊まつり期間中の中で開催するものとの年2回

記念イベントを実施したいとの予算を要求していく。

<委員>

- ・開園70周年のイベント実施に向けて、その内容を運営委員会から提案をすることはできないか？過去の50周年や60周年のときなどは運営委員会として何か動きはあったか？

<事務局>

過去のことについては、まだ調べていない。次回の運営委員会（令和3年度第3回）のときに報告したい。

<委員>

例年で行くと来年度の第1回目の運営委員会が8月に行われるので、それでは間に合わないで、次回（令和3年度第3回）のときには決めたいので、今ここで、何かあれば提案してもらいたい。

<委員>

（自分の職場において）学生が6,000人くらいいるので意見などを聞くことはできるが、イベントを考えると少し難しいかもしれない。学生の中では「マルシェ」というのはよく聞くけれど。

<委員>

ジオガイドに声をかけて、期間中に園内を回る「ジオツアー」をしてもいい。
郷土資料館を借りて、園内のジオポイントの展示などをしてもいい。

<事務局>

事務局としては、日頃イベントを行っている民間団体による出店や音楽演奏を考えている。3月の段階では予算がある程度決定してくるので、その対応についてお伝えしたい。

<委員>

任意で構わないので各委員にメール等でいつまでとして提案を募るのはどうか？

<委員>

その際、過去の資料（50周年）などを確認して、提示していただければと思う。

<委員>

この際なので、桜御殿を一般公開してもいい。

<委員>

先のキュービクルの修繕工事について、昨年度の修繕において追加の修繕が必要となったとのことだが、事前の調査をしっかりとってもらいたい。

<委員>

限られた予算の中で行っていると思われるが、今回のような追加工事などがあると、その分、何かを削っているのか？

<事務局>

何かを削るというより優先順位を決めていて、予算の中で対応している。
毎年、見直しをしながらその優先順位を確認して要求をしている。

③ 楽寿園運営委員会提言書について

平成26年に運営委員会が出された提言についての再認識をするため、その検証内容を事務局から説明。

<委員>

財政的には厳しいのに、なぜ小・中学生を無償化したのか？

<事務局>

現在、三島市としては「儲ける」より「いかに多くの人に見ていただけるか」ということで、子供から大人までの入園者数の増を考えている。

おかげさまで、平成28年度から30年度までは、年間30万人を超える人が入園されている。(今はコロナの影響で落ちこんでいるが)

以前は、楽寿館で結婚式やったこともあったが、文化財への影響を考えて、取りやめている。

<委員>

子供の無償化については、楽寿園に若い人があまり入園されない。そのため、大学生までを無償にして、(三島の)街への人流が増えることを目指し、それに併せて小・中学生も無償化したと記憶している。

<委員>

今回、このような運営委員会の提言を確認し、振り返ることで、今後の楽寿園のあり方や運営委員会の存在意義を改めて意識してもらえればと思う。

<事務局>

最近、市議会においても楽寿園の今後の在り方などが質問されることがあるが、三島駅東街区の再開発など周辺環境変化を見据えながら考えていきたいと答えている。

今後は(運営委員会)委員の皆様にもご意見・ご協力をお願いしたい。

<委員>

三島駅前にホテルができたり、かなり環境が変わってきている。楽寿園は駅の目の前にある施設のため、今や東京などでも注目されているところである。

<委員>

万葉の森についても、立て看板などの整備を引き続き進めていきたい。

④ 街の森公園緒整備について

<事務局>

現在の「街の森公園」を、来年度の開園70周年に併せて楽寿園に編入し、今年度は、その整備費として100万円の予算を計上し、「神秘的な空間」としての整備を進めていく予定。

今回、併せて「街の森」の名称の変更を提案。

<委員>

運営委員会としては、「緒明の森」または「緒明記念の森」との意見でまとまった。

議事は以上で終了となる。

その他として 意見交換

- ・郷土資料館からイベント等の案内（詳細省略）
- ・新型コロナが落ち着きを見せ始め、観光が戻ってきている。ただし、趣向が変わりつつあり、見たり、聞いたりすることが増えている。アフターコロナでは、人が大事と考える。商品コンテンツになる素材が必要となる。
「楽寿園に行けば、こういう人に会え、こういうことが聞けるのでまた来てみたい。」といった形で、再訪したいところにも考えていきたい。
バスの団体も増えてきている。美しい伊豆創造センターとジオパーク推進協議会が合併する予定を進めている。静岡県もいろいろな形で動いている。教育旅行もその一つで、伊豆はジオ（パーク）が入ってくる。ガイドの人柄などが大事となってくる。
- ・三島には「ふるさとガイド」がしっかりとある。PRしてほしい。
- ・「ふるさとガイド」も9月いっぱい活動を停止していたが、10月に入り、少しずつ（お客さんが）入ってきていて、上向き状態。
- ・来年度の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」もあり、市商工観光課とも意見交換をし、また伊豆の国市や関係地域とも情報を交換して足並みをそろえていくことが課題。
- ・大河ドラマでの伊豆が舞台となるのは初めの2か月間だが、伊豆箱根鉄道も大河ドラマに関与しており、大河ドラマ館など、ハード面ではPRのチャンスなので情報の共有し、企画を図りたい。
- ・「街の森」も整備後、楽寿園に編入する際、楽寿園のパンフレットの地図へ名称挿入を忘れずに必ずしてほしい。